

令和3年(2021年)度 地域連携活動報告書

連携先名称：大分県竹田市

協定締結日：2018年8月30日

活動状況：継続中

連携先窓口：竹田市役所農政課ブランド推進室

活動資金：大学予算

担当教員(所属)：山田崇裕(国際バイオビジネス学科准教授)

活動体制(単位)：学科

関連教員(所属)：木原高治(国際バイオビジネス学科教授)

大久保研治(国際食農科学科准教授)

活動目的：

包括的な連携のもと地域の産業、環境保全並びに教育・研究の充実のため、産業振興、地域づくり等の分野において相互に協力することを目的とする。

人材育成に関する活動では、「バイオビジネス実地研修(必修科目)」を通じた農大生と地域住民、優良農業経営者、地元高校の教育交流活動を推進する。

活動内容・成果：

本連携活動の要となる「バイオビジネス実地研修(一)」は、新型コロナウイルス陽性者数の急増に伴うまん延防止等重点措置の発出を踏まえ、竹田市と本学科の合意の下、2021年度夏季現地実習も全面的に中止となった。また、竹田市役所、竹田市観光ツーリズム協会とは、夏季現地実習の中止を受けて、2022年春季短期現地実習の実現に向けてオンライン会議を複数回開催し計画を練ってきたものの、残念ながら東京都と大分県の双方で陽性者数の減少がみられず協議の結果中止となった。

実習を希望した学生12名は、現地実習の代替プログラムとして、中山間地域農林業の実態や、竹田市の歴史、農林業、地域特産品、地域社会の特徴に関するプレゼンテーションとディスカッションを行うとともに、竹田市での現地実習を紹介した資料映像を視聴した。

竹田市内に所在する県立久住高原農業高校の佐藤智之校長先生(本学出身)より、実践総合農学会ニュースレターに寄稿を寄せていただき、その中でバイオビ

ビジネス実地研修についても触れていただいた。

課題・改善点：

2020、2021年度は新型コロナウイルスの感染防止の観点から、学生実習「バイオビジネス実地研修」のみならず、研究活動や人材交流を実施することができなかった。2022年度は、新型コロナウイルスの状況をみながら、本学の感染防止に関する行動指針、学部独自の課外活動のガイドライン、学科独自のバイオビジネス実地研修の実施要領をベースにしなが、竹田市役所、竹田市観光ツーリズム協会、地域の実習受け入れ農家等と担当教員で、夏季現地実習の実施可能性と実施方法の協議を進めていく。